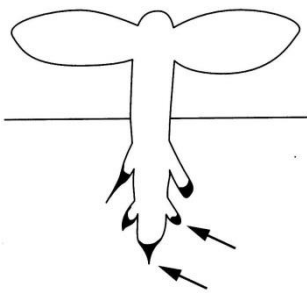


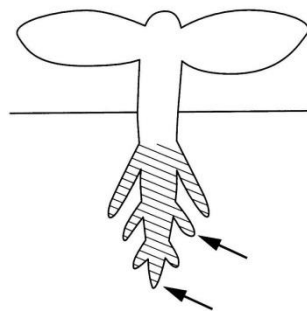
立枯性病害の簡易診断について

旧版の病害虫診断防除ハンドブックにあった簡易診断法について、簡略に、まとめなおしておきます。育苗期の苗立枯の診断にお役立てください。



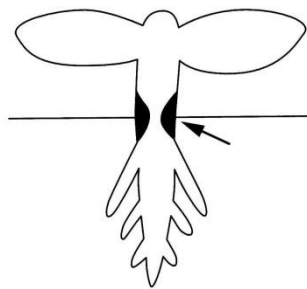
◆フザリウムが原因のもの

侵入部位は地下部です。根の先端から黒褐変し、腐敗消失するため、根量は著しく少なくなります。導管の褐変を伴う場合が多いです。腐敗部に三日月形の分生子が見られますが、根が崩壊していることや、土粒が付着していることから、観察には根気が必要です。



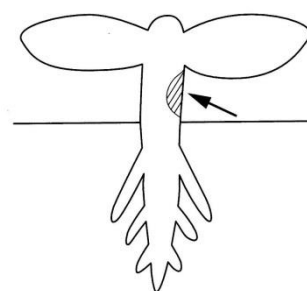
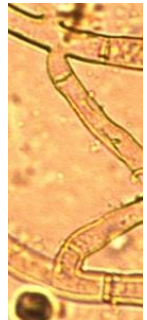
◆ピシウムが原因のもの

侵入部位は地下部です。健全個体と比較して、一見、根量は減少していませんが、根全体が水浸状に変色しています。微妙な変色なので、健全個体の根の色と比較してください。変色した根を検鏡すると球形の卵胞子が見られます。



◆リゾクトニアが原因のもの

侵入部位は地際です。地際が黒褐変し、乾腐してくびれます。症状が進展すると地下部まで腐敗消失する場合がありますが、初期症状では変色は地際だけで、地下部は侵されていません。変色部にT字型の分岐部を持つ菌糸が見られます。



◆疫病菌が原因のもの

侵入部位はリゾクトニアよりもやや上の、胚軸や地際付近の茎です。水浸状に変色した部分に侵入している無隔壁菌糸は、原形質が顆粒状です。卵胞子が見えることもあります。

